

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400939		
法人名	有限会社 ホリ		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338		
自己評価作成日	平成29年8月	評価結果市町村受理日	平成29年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成29年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな田園風景を眺望できる小高い丘の上にあつて、すぐ近くには、毎年お花見の招待をしていただける大きな工場もあり、民家も点在しています。また近隣にはいろいろなお花の名所に恵まれており、機会あるごとに出かけて季節を味わっていただいております。ホーム内にも常に野の花、山の花に気を配り、四季を感じていただいております。米作農家と直接契約し、砂地で収穫されたおいしいお米を購入し、卵は飼育農家から直接新鮮なものを購入したり、ホーム内の畑を入居者様と共に作り、季節の野菜などを収穫し、おいしさを追求した料理を作っています。入居者様一人一人がその人らしく安心して生活ができるように、家族、地域、医療との連携を図り、スタッフ一人一人が入居者様に寄り添い支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム名「たんぼぼ」をイメージした黄色塗りの建物は、玄関を中心にして左右対称に東棟・西棟に分かれている。両棟に利用者主体の「一日のながれ」があり、それに沿って日々の暮らしが穏やかに営まれており、特に外出支援と食事の提供に力を入れている。季節を追って、菜の花・桜・ばら・菖蒲・コスモス等の花見に出かけており、食に関しては三度の食事以外に、利用者の嗜好に合わせておはぎ・お好み焼き・サンドイッチなどを職員と一緒に作って楽しんでいる。その様子は、2ヶ月に一度発行されている「たんぼぼだより」に写真を添えて紹介されている。又、運営推進会議の内容もおたよりで毎回報告されており、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様本位で、地域の中で安全に楽しく生活できますように、全スタッフの意識統一と向上の為に、毎日の朝礼と月一回の全体ミーティングの時に唱和している。	「入居者一人一人がその人らしく安心した生活ができるように援助します」「家族・地域との連携を図り、良い環境を作ります」「健康管理に努め医療との連携を図ります」「生活の中に季節感や自然を取り入れます」という4つの理念を踏まえて、職員と利用者は対等であるとの認識の下、喜怒哀楽を共にした暮らしが営まれている。	自己評価を全職員で行い、それぞれがホームの運営やケアを振り返り、気づきを得て話し合いを持つことで、理念の再確認にも繋がるものと期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グランドゴルフ「たんぼぼ杯」を毎年開催し、多くの住民に楽しんで頂いている。ボランティアの受け入れも積極的に受け入れ、年間行事の中にも交流が図れるように行っています。隣接する工場との相互交流や買い物や外出等地域の一員として交流を図っている。	長期にわたって町の「グランドゴルフ協会」に「たんぼぼ杯」として賞品等を提供しており、参加者との交流でホームへの理解が得られている。又、隣接する工場敷地内の桜の花見の案内があったり、菖蒲の花の時期には個人宅から招かれて花見に出かけており、これらは地域との楽しい恒例行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援などを訴えながら、事業所の地域貢献のひとつとしてグランドゴルフ「たんぼぼ杯」を毎年開催しているが、地域の人に向けて活かすというのはなかなか難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2か月に1回)に会議を開催し、ホームの2か月間のサービス実施の取り組み状況を報告し、家族や知見者や行政からの意見を基に話し合い、その後のサービスに活かすようにしている。	委員は、地域住民(3名)・社協ケアマネ・役場・他グループホーム職員・家族から構成され、2か月に一度開催されている。ホームから、行事報告と現状報告が出された後、各委員がそれぞれの立場で発言した内容が詳細に議事録に記されている。この議事録からも利用者の暮らしがわかり、各委員の理解が得られている事が確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に一度の運営推進会議には町役場の担当の方に毎回出席いただき事業所の実情や取り組みを伝える等協力関係を築くようにしている。	行政の適正化事業に伴う「ケアプラン点検」が年一回行われており、必要事項を記載して役場に届けている。質問や確認したい事がある時などは、適宜電話で問い合わせしている。運営推進会議欠席の場合は、役場に出向いて議事録を届ける等、協力関係を築く努力が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の介護保険法指定基準については、随時ミーティング等を行い説明して理解してもらっている。	月一回のミーティングのテーマとして、「身体拘束」も取り上げており、身体拘束の具体例とその弊害等について話し合い、意識の向上に努めている。特に、言葉かけについては、家族のように接するが家族ではない事を認識し、気付いたら、その都度注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、全体ミーティングや勉強会、または回覧にて知識を高め全スタッフの意識を引き上げお互いが注意し合える関係を作っていくように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際自分たちの周りに対象となる方々がおらず、実感性が乏しく、勉強としては取り上げたり通達として流しても理解はできない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族に重要事項説明書に沿って説明を行い、「保険分」と「自費」の部分の分かりやすく1つか月分にして説明をし、ホーム内の見学も必ず行い納得して締結を図っている。解約も相手の問題にあったやり方で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回利用料の支払いに足を運んで頂く事を原則としており、来所持を通してお客様または方よりのお願ひ相談を話している。	「ホームに入所したから安心」ではなく、入所後の家族との繋がりを大切にしており、利用料金は、毎月ホームへの持参を原則としている。その折、一ヶ月の暮らしぶりを話して、意見や要望を聞く機会とし、気軽に話してもらえようような雰囲気作りを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや個人面接を利用して、スタッフの意見を出しやすい場作りに努めている。その結果、意見や提案が行われ良いと思われる個々のケアの方法や運営方法が取り入れられている。	職員は、出・退勤時、両棟の利用者に挨拶をしてから業務に入る事を徹底している。全体ミーティングでは個々のケアの方法について話し合い、利用者主体のケアが出来ているか確認する事で、自分のケアを振り返り、ケアの質の向上を目指している。また、月3回は担当制で何らかの行事を行うこととしており、利用者の楽しみにつなげ、コミュニケーションが図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績などを考慮して、やりがいある職場、向上心を持てるような職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に当ホームで経験のあるスタッフが指導したり、他の施設への研修、県の研修参加を含め、ミーティングの中で担当を決め発表の場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の推進会議、玉名郡市GHの連絡協議会への参加を通して周りの見聞を広め、交流することで質を高めることを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に対面にてゆっくりと会話を行うことで、サービスに不安を抱かせなく本人の不安を理解する対応を心かけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安をゆっくりと話を聞ける環境に努め安心して家族の気持ちを話していただくことに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番困っていること、一番心配としている件を対応の中より探り、いろんなサービスの説明を行ってみることで、相談者のあったものを自ら選べるように図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に体操したり、歌ったり、リビングで過ごしたり、食事は同じものを一緒にとり、入居者様によっては食事の準備後片づけや洗濯物をたたんだり、畑仕事をしたり、散歩をしたり本人と共に一日を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3か月に1回の状況報告書と2か月に1回のたんぽぽ便りを郵送することで家族の知らない一面を知っていただき、また訪問時の本人様との面会が良い形でできる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は時折あっているが限られており、本人からの要望があってもなかなか行くことも困難であり、悩むところです。	馴染みの関係継続の意義は十分認識しているが、家族の事情や職員不足等で、十分対応できていない現状である。2か月に一度、訪問散髪を受け入れている事で、利用者と馴染みの関係に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席や、リビングで過ごす場所、入浴の順番など、入居者様同士の関係を把握し関わり合いがうまくいき孤立させないように配慮し支援している。支障が生じた場合は随時変更している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームのいろんな事情があって移る必要のある方に、次の施設への不安を少しでもなくすため入所後の訪問や関係者への情報提供と家族・本人へのフォローができることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場になると本人の思いよりスタッフの考えで動いてしまい、一部の人にストレスとして出ることもあり、朝礼・連絡ノート・全体ミーティング・その場の注意で極力本人本位の重視の指導に努めている。	管理者は「褒める事は違いを認める事。その人らしさを認める事。他人に褒められると嬉しくて自分を認め、自分を信じる事ができる」という一文を職員用トイレに掲示。職員は入居者と対等である事を認識させ、本人の思いや希望を引き出し、寄り添うよう指導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしは、本人に寄り添い話を聞く中で把握。また家族からの情報等で、生活環境、サービスの利用経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、連絡帳を勤務に入る前に必ず読んでおくことを指導して、朝礼時または勤務交代時には必ず申し送りを行い、その日の本人に合った対応をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ミーティングの場や現場スタッフに記入を依頼したり、家族訪問時に希望などを聞き、また主治医との相談も入れたり、現状のニーズに近い介護計画とモニタリングができています。	両棟のケアマネは夜勤も務めており、各利用者の現状把握が出来ている。それに基づいて、主治医・家族・本人・職員が話し合い、現状に即したケアプランを作成している。その日の本人の言動・表情・行動・職員の思い・対応・今後の対策・課題等を記入した「丸ごとケア記録」をケアプランに反映させ、ケアの統一と継続に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、連絡帳、まるごととらえたケア記録に記録を行い、課題に対してうまくいった方法などをスタッフ間で情報を共有して、今後の計画に役立てるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化やニーズに対して医療機関との連携や外出による気分転換など、柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中に生きがいや張りを持っていただくためにボランティアの訪問や行事計画の実践の中で、今以上に地域資源の上手な利用を行うことでより心身が健康になれるように努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの病院受診付き添い又協力医の定期的な往診や受信により家族との相談を支え、安心した医療をうけていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の配置はありません。協力医療機関との24時間体制の対応の取り交わしは行っており、2つの医療機関からの定期的な往診と他の医療機関への定期受診を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供と、病院への同行をすることによって本人や家族の安心に努めており、入院時の面会や関係者への連絡を行っている。また地域連携室との交流の場での情報交換も訪問して入手に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の場合、人員体制や高レベルの支援方法も必要で現時点では困難であると思われれます。そのため、連携している医療機関に搬送し、対応してもらおうようにしている。本人・家族と出来るだけ早い段階で話し合い、事業所としてできることを行っていく。	ホームでの看取りは人員体制等から困難であり、入居時に、終末期は基本的に協力医療機関への搬送対応となることを説明し、理解を得ている。主治医との連携を密にし、早い段階で家族とも話し合いを続け、家族とホーム双方が悔いのない終末期支援に取り組めるよう努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング、研修、マニュアル、情報として流しており、スタッフ個々の能力の違いによる対応の差がないように繰り返し訓練していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と防災会社の協力を得て防災避難訓練を行っている。定期的なスプリンクラーの点検も行っている。	年2回、消防署立ち合いの避難訓練を行っており、内1回は夜間想定での訓練としている。同日に防災会社にも来てもらう事で、火災報知器の取り扱いやスプリンクラー点検等が行われ、適切なアドバイスを受けている。又、熊本地震後、運営推進会議でもテーマとして取り上げ、当時の状況と今後の対策が話し合われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉に使い方、対応には力を入れています。スタッフトイレにも入居者様の人格及び言葉使いについて張り出し理解を深めています。重要書類は事務所にて保管・管理し、プライバシーの保護に努めています。	管理者は、「自分が言われて不快になる言葉は使わない。自分が聞いて不快になる言葉は使わない」という事を意識して利用者に接するよう指導している。特にトイレ誘導や入浴支援では羞恥心に配慮し、その人に合わせたケアができるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉のかけ方や毎日の関わり中で、信頼関係ができた時に入居者様が自分の気持ちを訴えろ事ができると思います。気持ちを受け入れやすい環境作りにも力を入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ついスタッフのペースで行って入居者様との口論もあっていますが、その都度またミーティングの中で反省する場面もあり、介護者としての誠意とプライドで落ち着いて業務に臨むようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、訪問散髪に来ていただいております。洋服も自分で選べる方には自分で選んでいただいております、そうでない方は着方が偏らないように配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を利用したり、できる方とは一緒に準備や後片づけをしスタッフも入居者様と同じ食事を一緒に食べて味を批評したり、食事の準備・後片付けも一緒にできている。	調理専門の職員が2人おり、メニューは無く、その日の食材で家庭的な料理が提供されている。その後、献立表にメニューと職員の感想を記入しており、利用者の嗜好や摂取量が把握できる事で、次のメニューに反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態と状況をしっかり把握して本人に必要な食事提供の仕方、水分の進め方・食事摂取のやり方もおいしく確実に安全に食していただけるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら歯磨きが可能な入居者様には、自身で行っていただいている。ご自身でできない場合はうがい等を行い口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排せつのサインを見逃さずに昼夜問わず、トイレでの排泄ができる様に支援していますが、一人一人状況を判断できなくて失敗もあってます。少しでも失敗やパットの使用を減らせるように努めています。	自立の人は3名いるが、介助が必要な利用者については、トイレでの排泄が出来るよう心掛けている。気配を察知出来なかったり、見逃しによる失敗もあるが、羞恥心に配慮しつつ、さりげない誘導で不快感を払拭するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬や浣腸に頼らない自然な排便ができる様に取り組んでいる。朝からの運動や繊維質の多い食事及び必要な水分量確保などにより、予防に取り組んでいる。高齢になると必要時に薬の必要があるため、無理のない排便や下痢がないように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴だが楽しみにしている。拒否が強い場合はシャワー浴、足浴のみにしていたりしている。体調により入浴できなかった場合は翌日に入浴を行っている。	両棟とも、一般家庭にあるような風呂場で、一日置きに3名ずつの入浴となっている。毎回、職員がシャンプー・身体洗いを手伝い、心地よい入浴支援に繋げている。両棟とも、風呂場の窓越しに緑の木立ちが見られ、落ち着いた雰囲気を感じられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠については、日頃より昼夜逆転のないように、日中は運動などを取り入れたレクリエーション等により、覚醒を保ちながら活動されるように支援している。状況に応じては居室で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用の確認はスタッフにより責任を持って行っている。薬の説明書にて名前、作用及び副作用等の注意事項を確認するようにしているが、全員把握はできていないため、再度理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様によっては畑仕事や食事の買い出し、準備、後片付け、ホーム周囲の散歩などをしていただいている。ゲーム、作品作り、誕生日会、月の行事及び季節の行事を通して、入居者様に楽しんでいただき気分転換等を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周囲の散歩などいつでも行かれているが、天気次第では入居者様全員に声かけして散歩したり、食事したりしている。ご家族様との食事でも外出も行われている。	その日の天候や、利用者の気分次第で気軽な外出支援が行われている。毎月の行事予定にも花見やこいのぼり見学・足湯等、外出の機会を多くして利用者の出かける楽しみと気分転換が図られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的なトラブル防止の意味もあり、個人的にはお金は所持されていません。但し必要な買い物は立替払いによりその時にスタッフ同伴にて買い物をしたり、買い物ツアーの計画の中で必要な物を購入されるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり、ご家族様にも電話の取次ができることを伝えていきます。郵便物も制限はしておりません。しかし、できるだけ面会していただければと思っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い玄関ホールにはスロープ、広い廊下には手すりやエアコン、リビングにはゆったりと寛げるソファや大型テレビ、エアコン、居室やどの空間も大きな窓があり、四季の景色、鳥や虫の音が楽しめます。浴室やトイレも清潔保持に努めています。	木調の広い玄関から、左右に西棟・東棟に分かれており、内部は全く同じ造りである。リビングには、テレビを囲むようにソファが置かれ、壁に大型のカレンダーが掛けられている。居室に続く廊下もゆとりがあり、木調のため、落ち着いた雰囲気である。中庭に面したウッドデッキには洗濯物が揺れ、掃除も行き届いており、家庭的で穏やかな空気が流れていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにゆっくりできるスペースと自由に自分の思いの場所に行くこともでき、入居者様同士ソファで楽しみ、食事テーブルを囲んで雑談や作業で過ごすよう工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人一人自由にご使用いただいております。馴染みの物や好みの物持ち込まれたりして、安全に過ごしやすいように使っています。	木製のベッドと、利用者が使いやすい高さの整理ダンスがホームの備品である。私物が少ないと思われる部屋や、テレビや収納ボックス等が持ち込まれた部屋があり、本人の性格や家族の意向が反映された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで手すりやスロープもあり入居者様の安全を考えた造りである。散歩やホーム敷地内の畑やベンチに出られる時もスタッフが見守りやすい造りとなっています。		